



2021年3月 2020-2021 第5号

ワイズメンズクラブ国際協会 アジア太平洋地域ブリテン

主題: 変化をもたらそう スローガン: 奮い立たせよう



(上)フィリピン区がホストした第25回アジア地域大会 (下)元理事シップ・ガリンと元クラブ会長テリー・コンリーがマカティYMCAのグリーンコミュニティーの道路を定期的に清掃



目次

地域会長からのメッセージ: 2

次期アジア太平洋地域会長の紹介: 3

フィリピン区特集: 4-16

3月の強調月間テーマ: 17-19

グリーン活動 : 20

フィリピン区の理事トロイカ: 直前理事アンジェリト・プア、理事ジョン・リム (人気半ばで逝去)、次期理事(現理事)ルーベン・シャオ

地域会長からのメッセージ

アジア太平洋地域会長 デビッド・ルア



アジア太平洋地域の皆さま

2020/21年度の下半期に入りました。2021年2月19日から21日まで開催された「2021年国際議会年央会議」と2月28日に開催された「2021年アジア太平洋地域年央会議(議会)」が無事終了しました。

国際議会年央会議は、上半期の活動を振り返ることを目的として開催されました。例年は、国際執行役員と次期地域会長だけが出席していましたが、今年は、地域会長と国際事業主任が参加しました。会議において、国際役員の実選結果が発表されました。次期国際会長(2021-2022年)に選出された元インド地域会長K・C・サムエル、アジア太平洋地域選出の次期国際議員、次期地域会長(2021-2022)シェン・チー・ミン(チャーミング)にお祝いを申し上げます。チャーミングについての詳しい紹介は、次ページに掲載されています。

今年のエリアの年央会議は、年央議会に名称が変更されました。次回の議会は、2021年5月に開催されます。2月の年央議会では、多くの方に関係する重要事項として、以下のことが決定されました。

- 35歳以下の会員の地域会費およびNDERF分担金の免除
- 全ての区から経験豊かなリーダーと若いリーダーが参加する重要な委員会やタスクフォースの設置
- アジア太平洋地域における、国際協会創立100周年記念プロジェクトの承認。主な目的は、ワイズ運動へのメンバーの関心と熱意を高め、協力して変化を起こそうとすることです。3つのプロジェクトは、以下のとおりです。
- アジア太平洋地域・食べものと伝統コンテスト
- 「アジア太平洋地域の歌」制作プロジェクト
- エリアグリーンエネルギー社会事業

元国際議員のラモナ・モラレスには、フィリピン区の豊かな歴史とその栄光の日々を本号のために編纂していただき、大変感謝しています。また、過去と現在の活動に関する膨大な情報を整理していただいた区のリーダーたちの努力にも感謝しています。この区のメンバーの優れた仕事と無私の奉仕、そしてそのリーダーの一人であるジョン・チョアが2004年に国際会長に選出されたことは、ワイズメンの旗の下で、人生に影響を与える変化をもたらすために、私たち全員を鼓舞するものです。

2021年3月号の地域ブリテンを発行して下さったブリテンチームの皆さまに、改めて感謝申し上げます。

どうぞお元気でお過ごしください。



次々期アジア太平洋地域会長の紹介

台湾区のシェン・チー・ミン(チャーミング)が、2021-2022年度の次期国際議員、次期エリア会長に選出されたことをお祝いたします。

チャーミング(70歳、実業家)は、30年間に亘って台湾区のメンバーで、クラブ会長や部長など、さまざまな役職を歴任しました。また、長年、区事業主任として、様々な職務を担当してきました。

献身的で熱心なワイズマンであるチャーミングは、国内外の兄弟クラブの発展に積極的に取り組んできました。また、2011年に宜蘭で開催されたアジア地域大会や、2016年に台北で開催された国際大会など地域大会や国際大会などのホストコミッティー委員としても活躍しました。



彼は2019年に2019年1月に病気で亡くなった最愛の妻を記念して「ワイズメネット・リリー・チェン福祉基金」を設立し、1,000,000台湾ドル(35,000米ドル)を拠出しました。この基金は、健康を促進し、特にメンバーの医療援助や教育の促進などを目的として設立されました。また、彼は、様々な社会奉仕活動を支援してきました。

彼は、アジア太平洋地域会長に就任する2022年に行われるワイズメンズクラブ国際協会の100周年記念祝賀で大きな役割を果たすことを楽しみにしています。彼が重視するのは、人々の生活に影響を与え、ワイズメンの精神をさらに高みへと引き上げるイエス・キリストの教えに基づいたクラブ拡張活動とCS活動です。



マニラで開催されたアジア地域大会で元アジア地域会長のタン・ミン・シャオと



受賞者への贈呈式で

編集者からのメッセージ

今月は、フィリピン区に焦点を当てています。来月以降、南東アジア(SEA)区、スリランカ区、そして台湾区の順番になります。

また、プログラムに関する記事も募集しています。4月号は、国連プロジェクトとロールバックマラリア(RBM)、5月号はゴミ週間、イメージ構築とブランディング、青少年の関与と活動(YIA)、6月号は YMCA リエゾン(YL)、パフォーマンス分析と評価、次年度の計画についての記事です。

アジア太平洋地域のPR事業主任のアンディ・フーは、定期的にエリアのFacebookページにストーリーや情報を投稿しています。

アジア太平洋地域 ブリテン編集長
コリン・ランビー

フィリピン区 過去を振り返って前へ進む

フィリピンにおけるワイズダムの歴史は、1927年に南中国区が、1521年にスペイン人がキリスト教を持ち込んだフィリピンのセブでクラブを組織したことに始まります。クラブの組織化は、YMCA総主事のスティーブン・プロンコによって進められました。1933年まで続いた後、1936年にはセブYMCA主事のコンラド・サベリノとフィリピンYMCA同盟総主事のエヴェレット・スタントン・ターナーの下で再編成されました。このクラブは、YMCAの募金運動のキャンペーンチームとして活動し、1939年まで機能していましたが、第二次世界大戦でセブが日本の砲撃で破壊されたため、クラブの発展は中断されました。

フィリピンのワイズダムの新しい歴史は、1941年4月4日にマニラワイズメンズクラブが組織された時に始まりました。後に、フィリピン人として初めてフィリピンYMCA同盟の総主事になったドミンゴ・C・バスカラがこのことを進めました。バスカラの招きで、12人の男性がフィリピンYMCA同盟のオフィスに集まり、総主事のE・S・ターナー博士からワイズメンズクラブの意義の説明がありました。ターナーの話聞いた後、この12人はクラブを結成し、1941年7月19日に会則を採択しました。

12月8日に戦争が勃発したため、1941年のクリスマスに予定されていたクラブの発足式は行われませんでした。日本に占領されている間も、クラブのメンバーはYMCAに奉仕し、様々な市民活動や救援活動を指導しました。

第二次世界大戦後の1945年8月1日、フィリピンYMCAの臨時本部で戦前の役員が再編成されました。1946年8月3日に国際協会からマニラワイズメンズクラブの加盟が認められ、その後、国内最大のクラブとなりました。

マニラクラブは、改組後、フィリピンを区とすることを目的の一つに掲げました。1946年8月、ペンシルバニア州ブラッドフォードで開催された国際理事会に区として認める要望書が提出されました。国際理事会は、5つのクラブが組織され、チャーターされることを条件に、これを認めました。

1947年のトレド国際大会までに、5つのクラブが国際協会に加盟していたため、フィリピン区が設立され、当時マニラクラブの書記だったアルバロ・L・マルティネスが初の区理事に選ばれました。1949年のベネット・トロフィーコンテスト(会員数が多いクラブを表彰)では、マニラクラブが優

勝クラブとなり、フィリピン区が優勝区となりました。

1949年のミネアポリス大会では、マルティネスが初代国際副会長に選出され、後任の区理事にはマウロ・O・バラディが選ばれました。バラディの後任には、1951年のクリーブランド国際大会でマニラクラブのセレスティノ・C・フアンが選ばれました。1952年のバンフ国際大会では、バギオクラブのチャーター会長であったシクスト・ドモンドンが区理事に選出されました。

国際副会長を務めていたアルバロ・マルティネスは、フィリピン区は、運動への献身を具体的な方法で表現すべきだと感じました。彼のリードで、「ワイズダム発祥の地」と題したプレートを購入するのに十分な資金が集まり、1959



年にトレド中央YMCAのロビーに設置されました。

米国・オハイオ州 トレド中央YMCA

ワイズダムは、フィリピン全土に急速に広まりました。以下のクラブが新たに設立されました。

ルソン島

1946年 - ルセナ、ケソン・ラオアグ、イロコス・ノルテ

1948年 - バギオ

1950年 - サンパブロ、ラグナ、マニラダウンタウン

ビサヤ諸島

1947年 - イロイロ

1948年 - セブ(再編成)

1952年 - プルパンダン、ネグロスオクシデンタル

1956年 - バコロド

ミンダナオ島

1948年 - ダバオ

1955年 - コタバトシティー



栄光の時代

このようにして、YMCAと地域社会への長きにわたる卓越した効果的な奉仕活動が始まりました。

- YMCA、フィリピン赤十字、国立整形外科病院、フォートマッキンリー退役軍人病院、セトルメントハウス、韓国で戦った者の家族への援助、ジフテリアワクチン基金活動など、価値ある目的のための資金援助活動。
- YMCAの恵まれない少年たちのキャンプを後援し、貧しいがそれにふさわしい学生をYMCAの多くの学生会議に派遣。
- Culion Leper Colonyの患者に衣類、食料品、娯楽用品などのギフトパッケージを贈り、児童養護施設にミルクを配布し、トンドの火災被害者の救済のために資金を寄付。
- YMCAの無料水泳キャンペーン。
- マニラ警察の優秀な10人のメンバーへの表彰。
- 3回の大統領選挙において、有権者が候補者を評価するための有権者ガイドを作成し、配布し、新聞に掲載。
- 1953年、当時87歳だったフィリピン共和国初代大統領エミリオ・アギナルド将軍に忠誠の巻物を贈呈。
- 1953年、アメリカとカナダの幾つかのクラブが、米とよりバランスのとれたミルクで栄養価の高い食事の補強をするために、フィリピンのワイズメンに種子を送った。同年、ダバオのワイズメンは、貧しい少年たちが靴を磨いてお金を稼ぐのを助けるプロジェクトを開始。また、クラブは「より多くの食料活動」の一環として豚の飼育プロジェクトを後援。

多くのワイズメンがフィリピンの全てのYMCAにおいて理事を務めました。大半の理事がワイズメンというケースもありました。これは、ワイズメンズクラブの会員であることが、YMCAの理事会メンバーになるためのトレーニングの効果的な手段となっていたからです。また、これは、若い男性がYMCAの運営において、より大きな責任を担うための準備を継続的に行う効果もあります。ワイズメンズワールドの1966年1-2月号には、「バスカラ・・・Yの、そしてYのための人」という5ページの彼への賛辞の記事が掲載されました。

1962年のチャーター周年記念のプログラムにおいて、マニラクラブのワイズメンはメンバーのソニー・ヴィダロンが作曲した公式ソングを採用し、それは、1967年11-12月号のワイズメンズワールドに掲載されました。

1962年、ダバオクラブは127人のメンバーで世界最大のクラブであり、クラブの会員数を競うベネット・トロフィー国際コンテストで1位となりました。

1963年、2年連続でフィリピン区がベネット・トロフィーを獲得しました。同トロフィーを獲得した上位4クラブは、スタ・アナ、ドゥマゲテ、イロイロ、サンカルロスクラブでした。1964年には、サンカルロスクラブがベネット・トロフィーコンテストで優勝しています。

クラブ拡張の取り組みの結果、最大の会員数を獲得したフィリピン区は、ベネット・トロフィーコンテストで注目すべき記録を残しました。フィリピンのワイズメンは、地域社会への奉仕活動に熱心に取り組んでいます。様々なプロジェクトの詳細な説明を行うには別冊が必要となります。

「世界の展望」の分野でも、フィリピンのワイズメンは、いくつかの驚くべき経験をしてきました。

- 1) 1964年10月8日、インドのハイデラバードクラブの定期的な「国家に乾杯」プログラムでフィリピンが紹介されました。
- 2) 1965年9月にタール火山が噴火した直後、マニラのワイズメンは、全国的な食糧キャンペーンの呼びかけに応えた組織の一つでした。これには、以下からのクラブ献金が寄せられました。
 - a. 日本区
 - b. 香港の3つのクラブ
 - c. スアヌ、ホノルルクラブ
 - d. オーストラリア区
 - e. オハイオ州レイクウッドクラブ

当時、フィリピンのワイズメンとYMCAとの関係は相互に親密で強いもので、多くのワイズメンがYMCAの理事会や委員会に参加していました。

- 1) 1955年、マヌエル・マグボ博士が世界YMCA同盟の執行役員会メンバーに選出され、1959年に再選されました。
- 2) 1959年、YMCA全国大会は、ワイズメンズクラブの組織を強化し、特にYMCAが無い地域のワイズメンズクラブに対して、ハイワイクラブと学生Yクラブの推進を行い、それぞれの地域でYMCAのワークキャンプとユース会議を設置するように要請することを採択しました。
- 3) 1963年、エルマー・クロウ賞はマニラ広域部部長のハリス・B・イーに授与されました。(直前の受賞者は、ミンダナオ部のルペルト・デモンテベルデ(後の国際副会長)でした)。
- 4) 1966年、マニラのワイズメンは、オーストラリア・ニュージーランド区のアーサー・カウリング元国際理事と米国フィラデルフィアのシャーマン・ハーモン(国際組織関係委員会)をもてなしました。

フィリピンのワイズメンは、第1回(1957年、香港)、第2回(1959年、東京)、第3回(1963年、シンガポール)、第4回(1967年、メルボルン)、第5回(1971年、ソウル)のアジア地域大会に多数が参加しました。

フィリピン区における初期のワイズメン運動が家族クラブであったことは注目に値します。すべてのワイズメン、クラブ、部、区の活動やプロジェクトに妻(メネット)と子供たち(ワイズリングズ)を巻き込んでいました。

歴史を振り返ってみると、過去の栄光の時代にフィリピン区は、ワイズメン国際運動の柱の一つとして位置づけられていました。私たちの指導者たちは、先駆者であり、彼らの献身は、ビジョンと行動に一致しており、結果として、健全なクラブライフを実現しました。クラブは、全国各地で芽を出し、拡大していきました。ワイズメンズクラブは、YMCAの名誉あるパートナー組織であり、地域社会への奉仕活動に決して衰えることはありませんでした。会員であることは特権であり、誇りでもありました。

開発委員会

幸せな日々は、望んでいたように永遠に続くわけではありませんでした。70年代初頭に問題と課題に直面しました。クラブの結成と成長は、減速しました。有能なリーダーシップが、より必要とされていました。クラブライフに欠かせない会員の参加とサポートは減少し、しばしばあてにできないものとなっていました。

よく見られる曲線のように、悲しいことに、フィリピンワイズダムの時代には浮き沈みがありました。栄光の時代は、70年代後半まで見られました。

戒厳令宣言に始まった70年代の社会政治的混乱は、フィリピンのクラブの弱体化の引き金となったようです。それは、会員の経済的能力だけでなく、士気にも影響を与え、ワイズの精神は大きく揺さぶられました。社会環境は、至る所に軍の存在感があり、人々は、間違っただグ付けられることを恐れていました。

80年代は、会員数やプログラムさえも徐々に減少していく後半まで、クラブ活動の平穏な状態が続きました。脅威が、何かができると感じているリーダーたちと会員に多くの課題を招きましたが、リーダーたちの不屈の精神と粘り強さによって、クラブは、活性化され、親睦を深める会合や地域社会への奉仕活動も活発化されました。

1986年に戒厳令が解除された時、大阪高槻のYMCAではフィリピンのYMCA会員を活動に招待しました。厳粛な雰囲気は彼らを刺激し、帰国した者は、地元のワイズメンズクラブに入会することに興味を持ちました。

これらの新しいワイズメンの熱意を目の当たりにしたフィリピンのリーダーたちは、この機会を捉え、彼らが区の強化に携わることを促しました。

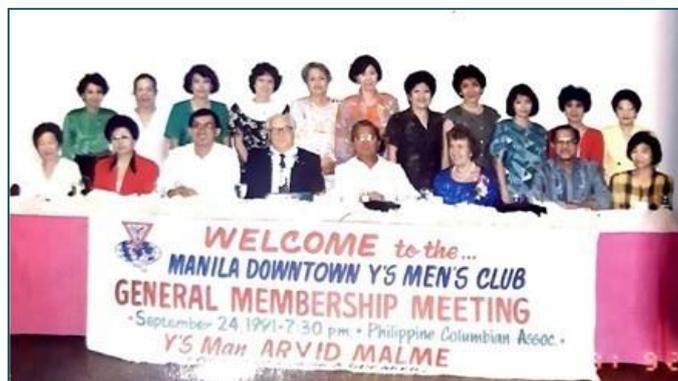


フィリピンからのワイズメンたち(リボン装着)。リック・アリンダユ、ラモナ・モラレス、マハル・デルムンド、マニー/ソル・コバルピナス、サイティング・バタクシル

その後、いくつかの協議が行われ、1987年11月20日に開発委員会が組織されました。クラブ訪問、協議、研修、親睦活動が行われ、3年の間、奉仕を目的としたプロジェクトが実施されました。開発委員会がクラブで良く知られ、地元クラブのリーダーとも対話が行われた結果、会員数が大幅に増加しました。



マニラジェネラルクラブの会員大会。ガバナンスについてのフランス・ガルチフォレナ判事のスピーチ



マニラダウンタウンクラブの会員大会。アービッド・マルメ国際会長とメネットたちと

しかし、区事務所や区スタッフの維持、区費の値上げや定期的なクラブ訪問、指導者研修の実施など、承認はされたものの、委員会の提案の一部が実施されず、発展は、持続しませんでした。

区費の値上げの提案も実行に移されませんでした。この会費増額は、旅費、区研修会、区事務所の経費増を賄うためのものでした。このことが、衰退の大きな要因となった可能性があります。自費で旅をしているリーダーだけが、活発な区を維持しているということが見られました。また、国の人口増加による交通量の増加は、人々が余暇に参加する自由な時間を減少させた可能性があります。

このように衰退の一途をたどる中でも、ミッションを重視したリーダーたちは、不動の姿勢を崩さず、区を維持する方法を考え続けました。

アドバイザー評議会

歴代のリーダーや役員の実験とその知恵の価値を認識し、現職の区役員が、全ての元区理事で構成される「アドバイザー評議会」を設置しました。その機能は、1991年の区定款と規約に定義されており、区の利益と繁栄に関して、区役員会に助言・支援を行うことになっていました。

1999年には、運動にそぐわない行動をとった次期理事が理事の地位を引き継ぐことが許されませんでした。この評議会の決定は、全会一致で、区役員会で承認されました。

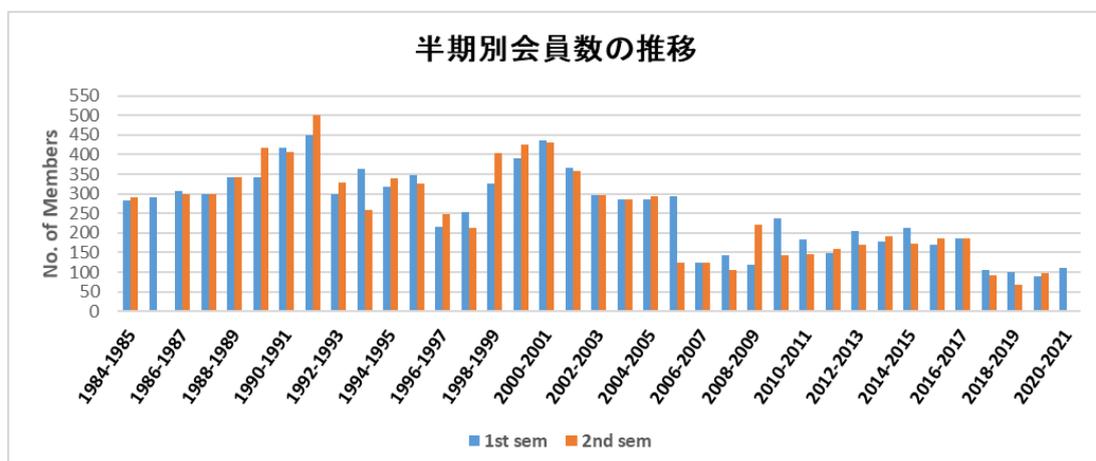
ニューミレニアム

2001年からは、会員の高齢化以外には特に原因がなく、再び会員数が減少し始めました。誘われた若者の入会意欲が減退し、コメントや家族が参加しなくなりました。また、会員のワイズ運動に対する深い理解が不足していたのかもしれない。

会員数の減少が続いていることは、部や区の大会でも議論されていました。旅費が高額になるため、島嶼部のクラブを訪問することが困難になりました。エリアや国際の指導者の訪問も、大きな島々に限定されてしまい、遠く離れた地域の地元クラブがリーダーたちとの交流を深めることができず、会員の意欲を削ぐ要因となっていたというのが一般的な見解です。このようなことを始め、リーダーたちは、問題にどう対応していくかを再考する必要性がありました。

2010年の区大会で、ビサヤス・ミンダナオの指導者たちは、これまで指摘されてきた問題を解決し、より実践的な管理と、部やクラブへのアクセスやモニターを実現するために、フィリピン区を北のルソン区と南のビサヤス・ミンダナオ区分割することを提案しました。原則的には承認されましたが、計画は具体化されず、戦略の詳細は追求されず、誰がこの動きを主導するのかについても合意されませんでした。これは、複雑なプロセスになるのではないかと意見もありました。

このように、浮き沈みの激しい武勇伝が続き、このトレンドは受け入れがたい真実となっています。感動的な過去に敬意を払うことを怠ってはならないので、私たちは、現状を実利的な姿勢で見つめながら、明るい未来への希望を取り戻すために、不動の姿勢を貫かなくてはなりません。

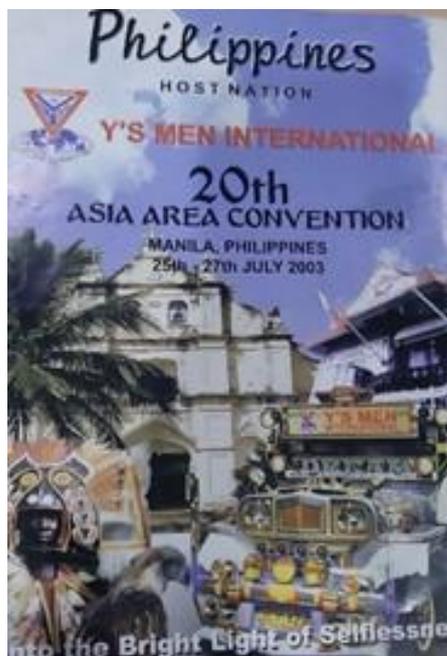


年度別(半期別)会員数、クラブ数、理事名

Year-Term	#s of Members		#s of Clubs		Regional Director
	1st sem	2nd sem	1st sem	2nd sem	
1984-1985	284	290	14	15	Franklin Demonteverde
1985-1986	290	290	15	15	Romeo D. Laig
1986-1987	307	300	18	16	Leopoldo T. Causing
1987-1988	300	300	16	16	Reinaldo C. Bautista
1988-1989	342	342	16	16	Evelio Leonardia
1989-1990	342	417	16	20	Miguel S. Aguirre
1990-1991	418	405	20	18	Wilfredo S. Damian
1991-1992	448	500	19	21	Ramona UJ Morales
1992-1993	300	328	12	14	Rene Cristobal
1993-1994	362	259	16	9	J.P. Diaz
1994-1995	318	339	12	12	John L. Choa
1995-1996	347	326	11	13	Medario R. Rivera
1996-1997	216	249	9	25	Aniceto Patacsil
1997-1998	254	214	19	17	Ben Tayabas
1998-1999	326	404	20	22	Efren Veneracion
1999-2000	391	426	22	24	Efren Veneracion
2000-2001	435	430	24	25	Domingo C. Yap
2001-2002	365	358	21	22	Cris Caparoso
2002-2003	295	295	18	18	Francisco "Kit"Villarín
2003-2004	285	285	18	18	Larry Chan
2004-2005	285	293	18	18	Philip Choco
2005-2006	293	125	18	17	Marlinda Tan
2006-2007	125	125	17	17	Manuel Guanzon
2007-2008	144	105	18	18	Henry Lee Chun
2008-2009	118	221	19	19	Henry Lee Chun
2009-2010	237	143	20	11	Willie C. Yu
2010-2011	184	146	10	12	Danny Sy
2011-2012	148	159	22	22	Trinidad Patacsil
2012-2013	206	171	22	22	Cipriano M. Guarín
2013-2014	178	191	22	23	Philip O. Lee
2014-2015	212	172	23	20	Paciencio M. Rosalem Jr.
2015-2016	171	187	19	23	Jonathan Teng
2016-2017	187	187	23	17	Paul L Lim
2017-2018	105	91	17	9	Franklin Demonteverde
2018-2019	100	68	9	9	Russell Kenneth Yee
2019-2020	88	96	9	8	Angelito Pua
2020-2021	110	-	11	-	John Lim + (succeeded by Ruben Siao)

区がホストした地域大会

第20回アジア地域大会 2003年7月25-27日



第25回アジア地域大会

マニラ市のソフィテル・フィリピンプラザにて開催。タガタイ市において第25回ユースコンボケーションも開催。ロベット・コア大会委員長、ポール・リム副委員長、フィリップ・リー理事の尽力で世界中から700名の参加者を集め、ワイズダムの祝賀会を成功させました。

マニラダウンタウンクラブの
ジョン・チョアが2004年に国
際会長に選出されたことはフ
ィリピン区の誇りです。



奉仕と伝統の継承

自然災害や災害もたらした経済危機は、完全には解決していませんが、クラブの活動停止や会費の未納などを招いた可能性があります。にもかかわらず、クラブは、地域社会に奉仕し続けています。フィリピン区のワイズメンズクラブは、メロダバオのワイズメンズクラブと提携し、カガヤン・デ・オロの校舎を寄贈しました。次ページの写真に写っているのは、元国際議員のラモナ・モラレスや他のワイズメンのリーダーたちと一緒にいるジュン・ロサレム理事です。



マカティサンピロとマカティゴールデンのワイズメンズクラブは、公営墓地内に住む貧しい子供たちに定期的に食事を与え、価値を形成するプログラムである「Kalusugan at Edukasyon sa Y (KEY)プログラム」を実施しています。ワイズメンズクラブが食事を提供し、YMCAの青少年ボランティアが創造的な活動やストーリーテリングを通して子供たちに教えています。



2015年には、これらのクラブは、「HealthY Talks」と称して、ストレスへの対処、糖尿病の管理、健康的な心臓、「笑いヨガ」などの健康セミナーを四半期ごとに開催するようになりました。



プロジェクトハローアルソンのチームは、日本とフィリピンの共同プロジェクトで、RAHAフィリピンワイズメンズクラブが、リサル州タナイ市のライバン小学校で、延べ401人の受益者を支援しています。



プロジェクトハローアルソンの本と科学キットの配布。100人の高校生が受益者。

プロジェクトハローの歯科ミッション。51人の生徒、教師が受益者。

台風および自然災害への対応

マニラダウンタウンクラブのメンバーとメネットは、スーパー台風ローリーの後、カタンズアンズで救援活動を行いました。米袋と衣類を480世帯に配布しました。



マニラダウンタウンクラブのカタンズアンズ救援活動。2020年11月17日

台風ローリーの後のラハフィリピンクラブの救援活動



ラハフィリピンクラブの台風ローリー救援活動 2020年11月15、16、24、25日

マニラ ダウンタウンワイズメンズクラブ台風ユリシーズ被災者支援活動
 救援物資：ラサム、カガヤンバレー、サンパブロ・イザベラのアウタンで、それぞれ200世帯に米、衛生用品そして福音を手渡しました。



ラハフィリピンクラブとメトロ・ケソンシティークラブは、ジェリコ・ガリタ次期部長と妻のCSクリスティンが率いる「TULONG SA MARIKINA DAHIL KAY ULYSESS」を組織し、マリキナ、モンタルバン、リザールの200家族に救援物資を提供しました。

新型コロナウイルスへの対応

マニラダウンタウンクラブは「Modified Enhanced Community Quarantine (MECQ) レスキュープロジェクト2020」を組織し、ロドリゲス、リザール廃棄場周辺に住む300の貧困家庭に10キロの米袋を提供しました。

ラハフィリピンワイズメンズクラブは、フィリピン国家警察、消防隊、マニラ首都圏の小さな村の家族にビタミン剤を配布しました。クラブは300人以上の学生と妊婦に学用品、書籍、牛乳、健康必需品を寄付しました。



メトロ・ケソンシティークラブのプロジェクト「Tulong Tablet para sa Kinabukasan Ko」。タナイ・イースト統合高校のオンライン遠隔学習(ODL)を支援するBrigada Eskwelaプロジェクトおよび「Alcohol Laban sa COVID-19 para sa Kinabukasan at Papel para sa Module Ko」モジュール式遠隔学習(MDL)を支援



マニラダウンタウンクラブとメネットは、マニラ首都圏周辺の病院に個人防護具を寄付しました。



区内の気候変動への行動

ラハワイズメンズクラブは、ワイズメンを対象として、環境問題への行動についてのフォーラムを開催しました。



マニラダウンタウンワイズメンズクラブのプロジェクト「優しさの種をまく」では、ケソン市内の孤児院に収容されている10歳までの孤児に有機土、野菜の種、土壌改良剤を含む300ポットを寄付しました。(プロジェクト委員長:マービン・リー)



一人一人の子供が私たちの社会の未来です。私たちは、彼らに優しさや忍耐力、責任感などの美德を伝え、彼らが成長したときに、良き市民、社会において勇敢になってもらうために、ポットに種を入れて、優しさと責任の種を蒔いていきたいと考えています。このプロジェクトは、農民たちの生計を助けていて、農民たちはこのポットを売って子供たちを学校に通わせています。

300個のポットは、ケソン市役所のジョイ・ベルモンテ市長に引き渡され、市内の様々な孤児院に配布されました。これらの野菜のポットには、ブロッコリー、ほうれん草、バジル、チャイブ、オレガノ、パセリ、タイム、アルファルファ、コリアンダー、フェネル、ルッコラなどが含まれています。

(マニラダウンタウンクラブ会長 アレックス・ユー)

マカティサンピロクラブとマカティゴールデンクラブは、マカティYMCAのグリーンコミュニティの周辺の道路で毎月クリーンアップ活動を実施しています。



ネグロスオクシデンタルクラブは、マングローブの植林を行っています。



フィリピン区の最近のイベント

アンジェリト・プア直前理事からジョン・リム理事への引き継ぎ



総会および「クラブ役員・会員・会員候補者のためのオリエンテーションと研修モジュール」がズームで10月7日、10月14日に開催されました。

Y'S MEN INTERNATIONAL
PHILIPPINE REGION

1st General Membership Zoom Meeting

HONORED GUEST SPEAKER:
ASD-LTOD/PAP RITA HETTIARACHCHI

International Theme 2020-2021: "Values, Extension and Leadership."
"To acknowledge the duty that accompanies every right."

SEPTEMBER 26, 2020, SATURDAY - 10:00AM

Y'S MEN INTERNATIONAL
PHILIPPINE REGION

Orientation & Training Seminar 2020-2021

(CLUB OFFICERS, MEMBERS & POTENTIAL MEMBERS)
HOST COMMITTEE: MANILA BAY DISTRICT

PART 1- OCTOBER 7, 2020, WEDNESDAY, 7:00PM
PART 2- OCTOBER 14, 2020, WEDNESDAY, 7:00PM

International Theme 2020-2021: "Values, Extension and Leadership."
"To acknowledge the duty that accompanies every right."

ZOOM ID: 348 375 0301 PASSCODE: 9Cctvh

メトロケソンクラブとタラスケソンシティークラブの合同入会式とクリスマスパーティー



マカティサンピロクラブとマカティゴールデンクラブのラブ強化研修会。2021年1月26日



マカティサンピロとマカティゴールデンクラブのうつ病に関する健康トークセミナーがFacebookとズームライブで広く配信されました。



元国際議員のラモナ・モラレス(インダイ)がマカティサンピロとマカティゴールデンクラブのメンバーのオリエンテーションを助けてくれました。

マカティ医療センターのセズ・タン博士は、うつ病および高齢者の間で発見する方法について話し、いくつかの対処メカニズムを共有しました。



ルーベン・シャオ理事が、マニラ首都圏の各所に掲示している、14か国語での「ワイズのコトバと使命」について話してくれました。



ルーベン・シャオ理事は、マニラベイ部部長時代に始めた毎週のZoomミーティングを、現在は、理事として役員やクラブ会長と毎週、ミーティングを継続実施しています。また、区では、年間を通じて会員増強オリエンテーションを実施しています。

ルーベン・シャオ理事とアンジェリト・プア直前理事が YMCA フィリピン本部を訪問し、YMCA フィリピンビルでのワイズ・フィリピン区事務所の再開計画について話し合いました。



左から、エド・ピラピルフィリピンYMCA会長、パビト・タブコル総主事、ルーベン理事、リト直前理事

故ジョン・リム理事への献辞



ジョン・リム理事(2020-2021年)は、まだ最初の半期の務めを終えたばかりでした。彼は、区を輝かしい時代に戻すという大きなビジョンを持っていました。悲しいことに、彼は、彼のビジョンが実現するまで生きることができませんでした。2020年12月29日、彼は病気のために天の父のもとへ帰りました。

彼は、口数は少なかったですが、IHQから公式に示されたとおり、上半期に会員数を100人未満から11クラブで110人に増やしました。彼の指導の下にあるクラブからは、さらなる大幅な会員増加が約束されていました。下半期には、区の会員数を増強する、新クラブ設立の予定もありました。

また、クラブの入会式や役員就任式に出席するなど、可能な限りクラブや部を支援しました。また、ルーベン・シャオ部長の要請があれば、マニラベイ部の中核グループの会合にも出席しました。彼は遠方の部のクラブに、政府の指針に沿った革新的な方法で、新常态の下で活動するよう奨励しました。

病院に運ばれる前日(おそらく潜在意識の中で)、彼は、元国際議員のラモナ・モラレスにEメールを送り、元区理事からなるアドバイザー評議会を復活させ、現在と将来の区の指導者を指導し、支援するために評議会の議長になってほしいと要請しました。モラレスは、それに応えました。ジョン・リム理事は、最期の数日間も、常にフィリピン区の問題を最優先に考えていました。ご冥福をお祈りします。彼は、理事として真に、「強い義務感を持つ 義務はすべての権利に伴う」を実践しました。心からの敬意を表します。(元理事 ポール・リム)

フィリピン特集への寄稿者:元国際議員・ラモナ・インダイ・モラレス、理事・ルーベン・シャオ、元理事・ポール・リム、フィリッパリー、フランクリン・デモンテベルデ、クラブ会長・アレックス・ユウ、マグズ・ガナ

3月強調月間テーマ コミュニティサービス

アジア太平洋地域 CS事業主任 ポール・リム



2015年9月に国連総会で採択された「2030 アジェンダ-すべての人のための持続可能な開発」には、以下のような内容が含まれています。17の持続可能な開発目標(SDGs)の内、3つのSDGsは、私たちが支援できる社会奉仕事業に関連したものです。

SDGs #1 貧困をなくそう (食事のシェア)

SDGs #3 すべてのひとに健康と福祉を (すべての人の腎臓の健康)

SDGs #6 安全な水とトイレを世界中に (個人の衛生によって新型コロナウイルスをコントロールする)

The infographic is divided into two main sections. The top section, titled 'SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS', lists three goals relevant to Y's Men International's work: Goal 3 (Good Health and Well-being) with sub-points for 'Renal Health for All', 'Provide Dialysis Machines', and 'Provide Medicine and Conduct awareness talks for Renal Health'; Goal 6 (Clean Water and Sanitation) with sub-points for 'Control Covid-19 by Personal Hygiene', 'Install Handwashing Kiosks', 'Provide Sippers', 'Provide Sanitizer Dispenser', and 'Distribute Face Mask & Gloves'; and Goal 1 (No Poverty) with sub-points for 'Share a Meal', 'Distribution of Food', 'Supply of Drinking Water', and 'Awareness on Wastage of Food'. The bottom section, titled 'Y's Men International Introduces for the first time', announces an annual award for outstanding achievement in Community Services, approved by ICM 2019. It details the award criteria, application process, and deadline (15 June 2021). A photo of Ym. Adv. N. Satheshkumar, ISD Community Service, is included.

2021年2月1日午後4時50分、マニラ市スタ・クルスのLRT-1ブルメントリット駅から20メートル離れた工事現場に鉄骨の梁が落下しました。4人が負傷し、病院に搬送されました。ラハフィリピンワイズメンズクラブのボランティアアメディックRAHA21のメンバーがGMAニュースライブでこの事件について取材を受けています。(写真左下)



2021年2月20日23時30分、ラハフィリピンワイズメンズクラブのボランティア消防車が、マニラのパローラコンパウンドで5人の死亡が確認され、2人のボランティアが負傷した火災に対応していました。狭い道路のため、火災現場に入るのに苦労しました。ラハウイズの救急車も現場に急行しました。(写真右上)

2021年2月20日24時46分。ラハフィリピンワイズメンズクラブの救急車3台がマニラ・マリアクラリア駅の角で発生したオートバイとトラックの衝突事故に対応。怪我人に応急措置を行った後、フィリピン整形外科に運びました。(写真右下)

2020年11月20日 ラハフィリピンワイズメンズクラブによるスーパー台風ロリーのビスコル地区での救援活動。寄付金の額ではなく、被災者の方々の心を癒すために、救援物資を届ける努力をしています。



マニラのマッカーサー橋での事故の際に救急活動を行っているラハ救急隊

ワイズメンズクラブ国際協会のグローバルな一員としての私たちの第一と第二の目的は、主に YMCA の奉仕クラブとして機能すること、他の価値ある団体を支援することです。この二つの目的を念頭に置き、コミュニティーサービスは、ワイズメンズクラブとしてチャーターされた最も重要な活動の目的です。

地域奉仕(CS)とは、私たちが受けている恵みや、より良い生活を送ることができている幸運を、地域社会に還元したり、分かち合ったりすることです。経済的に十分でなくても、地域社会との人間関係を強化するために、自分の時間と才能を分かち合うことができます。クラブ、部、区として、私たちは、地域社会やそれを越えた、前向きで持続可能な変化をもたらすことを約束しているCSプロジェクトを支援するために、創造的なターゲットを絞った募金活動を行うことができます。

ワイズメンバーとして、これは、公共イメージの構築、ワイズのアイデンティティー、そして危機の際に助けを最も必要としている人々や地域社会に刺激を与え、変化をもたらすために自発的に行っている善い行いを目にするすることで、より多くの新メンバーの参加を促すことができます。私たちのCSプロジェクトから恩恵を受けたコミュニティは、私たちにとって最高の支持者です。優れたCSプロジェクトは、多くの若者やボランティアを私たちの活動に参加させることができます。

コミュニティーサービスにおける優れた業績に対して、年間表彰が行われることが2019年度の国際議会で承認されました。賞には、2つのカテゴリーがあり、1つのクラブがコーディネートして実施したCSプロジェクトを対象とする「インディペンデント」と、部、区、地域レベルの複数のクラブが関与したCSプロジェクトを対象とする「コレクティブ」があります。CSプロジェクトは、社会から疎外された人々との関与があり、少なくとも20人の直接受益者、プロジェクトへの会員の出席率が20%以上であることが条件です。

ワイズメネットの活動について

アジア太平洋地域 ワイズメネット事業主任 澁谷実季



アジア太平洋地域のワイズメネット事業主任の他に、私は、2019年から東日本区のメネット委員長を務めています。現在、各クラブで女性会員の活躍がめざましいところですが、夫婦で活動する一例としてメネットの役割もあると思います。私たち夫婦の場合は、交際の頃から色々とお世話になった方がワイズメンズクラブの会員であり、夫はその方に誘われて2008年に入会し、私は2012年に結婚と同時にワイズメネットとなりました。2013年に転居に伴ってホームクラブを移り、ワイズメンズクラブの活動にも参加するようになりました。はじめは夫に付き合うイベントでしたが、区大会のワイズメネットアワーに参加するようになって興味を持つようになり、皆さん年齢を重ねながらも無理なく楽しく活動されている様子を知り、何かお手伝いができないかと考えて委員になることを希望して、今に至っています。区のロースターによると、メネットは男性会員のパートナーと定義されています。私は、パートナーとは補助的役割ではなく、女性の視点・特徴で男性を刺激して活動に含みができると捉えています。その視点でいくつかの事柄を述べます。

1. 国際女性デーについて思うこと

ご承知の通り、3月8日は、国際女性デーです。私の友人で全盲の女性がいます。彼女は、盲学校の出身で私と同じ大学に編入学し、いくつかの企業でのインターンを経てJICAの職員になりました。いまは独立して自分で事業を行っています。彼女にはいずれ活動に加わって欲しいと願っていますが、様々な経験を得た女性は、その着眼点や発想を用いて女性の活躍を支援するだけではなく、SDGsの欠かせない役割を担っていると言えるのではないのでしょうか。

2. 東日本区ワイズメネット委員会の活動について

東日本区では毎年継続してYMCAの子ども施設に絵本を贈呈しています。他にもメネットの集いを開催したり、区大会のワイズメネットアワーを通して、ワイズメネットや女性会員の交流を深めています。ワイズメンズクラブに関わっておられる女性は様々な職業・特技を持っておられるので、集いはいつも和やかで新しい発見の機会となっています。

3. 各クラブの取り組み

ワイズメネットの活動があるクラブでは、当然メンもその活動を支援しています。男性会員は、ワイズメネット活動の広報活動、資料収集、会場提供などに積極的に取り組んでいただいています。ワイズメネット活動の例としては、地域のこどもたちの教育支援の「エプロンシアター」、「料理の会」や、保育園の一角を用いて絵本のみの文庫をメネット文庫として開設しているクラブなどが挙げられます。

4. ワイズメネットナイトの紹介

日本のクラブでは3月のクラブ例会を「ワイズメネットナイト」としてワイズメネットが例会の企画、運営を行っているところがあります。

コロナ禍の中にあって、今年は活動が制約されていますが、あるクラブでは感染対策を十分にとった上で、茶の湯の会を行いました。

カンボジアの子供たちの支援

ベンディゴYサービスクラブは、カンボジアYMCAに資金を送り、幼い子供を持つ家族を支援しています。チャンサ・スレイ・ポプちゃんは、8歳の女の子で、YMCAの学校で勉強することができます。彼女の両親は、家賃と家族の食事のために、ごみ拾いに頼っています。YMCAは彼女の家族も支援しています。

カンボジアYMCAを通じてクラブが支援しているもう一人の子どもは、公立学校とYMCAセンターで学んでいる13歳のローエン・グオン・ライ君です。彼の家族は、コロナ禍で経済的な困難を経験しました。ベンディゴYサービスクラブの支援により、彼は、学校に通うことができ、学習教材も提供されています。

写真提供:へム・セル



グリーン活動と環境

アジア太平洋地域 プリテン編集長、グリーン活動・環境事業主任 コリン・ランビー

「カーボンニュートラルとネットゼロカーボン」

カーボンニュートラルとネットゼロカーボンは、同じ意味です。世界では、2050年までにネットゼロカーボンを目指そうと言われています。すべての炭素排出をなくすことは不可能です。なぜなら、二酸化炭素を排出している生命体が常に存在する(といいのですが)からです。もし誰かが、カーボンゼロになるという話を聞いたら、懐疑的になった方が良いでしょう。

個人、企業、YMCA、国がカーボンニュートラルになるポイントは、理想的には、二酸化炭素の排出量を可能な限り削減し、残りの排出量を植樹などの方法で相殺した時点です。

アジア・太平洋YMCA同盟は、2030年までにすべてのYMCAを「カーボンニュートラル」にすることを提案しています。YMCAは、企業や政府よりも人間性を大切にしているため、気候変動の影響を軽減するための道をリードしています。最近の報告では、2030年までに排出量を87%程度削減できれば2050年までにカーボンニュートラルになることは問題ないと言われています。

「カーボンフットプリント」という言葉もよく使われます。これは、個人、組織、国の炭素排出量のことで、通常は年間、トン単位です。オーストラリアの平均的なカーボンフットプリントは年間約20トンです。インドの平均的な二酸化炭素排出量は年間約2トンです。この差が大きいのは、オーストラリアの人々の消費習慣が高いことが主な原因ですが、オーストラリアは、電力のほとんどを石炭で発電しているためでもあります。アジア太平洋地域の他の国々の一人当たりの平均排出量は、この両極端の間に位置しています。

その国のカーボンフットプリントは、その国の人口だけでなく、その国がどのように発電しているか、どのような車を運転しているかなどにも左右されます。2,500万人の人口を持つオーストラリアは、イギリスが2倍以上の人口を持つにもかかわらず、イギリスよりも高いカーボンフットプリントになっています。

炭素排出量と気候変動に関する言葉を知ることで、何をすべきかを理解することができます。最近のアメリカでの指導者の交代は、気候変動に関する政策に大きな変化をもたらしました。幸いなことに、多くの国の多くの人々が気候変動の深刻さを理解しているため、徐々に変化が起きています。

気候変動に対する行動に関する政策の変化は非常に遅く、多くの人々がその結果に苦しむことになるでしょう。

あなたは、孫に「自分は変化を起こそうとしたんだよ」と言えるような人間になるのか、それとも、石炭や石油などを燃やし続けたいと思っていた人間になるのか、どちらでしょうか？

2022年のハワイ国際大会でのボランティアを募集しています。
ご興味のある方は、デビッド・ルア地域会長/利根川恵子地域書記まで

アジア太平洋地域ウェブサイト: <http://www.ysmenap.org/>
Facebook: <https://www.facebook.com/aspysmen>

プリテン編集チーム

編集長: コリン・ランビー
デザイナー:
ディーパック・パンダリ
マリア・マグダ・ガーナ
配布: 利根川恵子
アドバイザー:
デビッド・ルア
ラモナ・インダイ・モラレス

日本語版翻訳/編集: 田中博之